

（第 1 面）

産業廃棄物処理計画書	
令和 7 年 6 月 27 日	
札幌市長	
秋元克広 殿	
提出者	
住 所	札幌市西区福井4丁目 1 番5号
氏 名	株式会社 坂ノ下興業
	代表取締役 坂ノ下興業
電話番号	011-663-3016
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社坂ノ下興業
事業場の所在地	札幌市西区福井4丁目 1 番5号
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	総合工事業
② 事業の規模	売上高475百万円 資本金14百万円
③ 従業員数	16人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	各工事現場で種類ごとに分別 各工事現場→自社運搬・産業廃棄物業者へ委託→再資源化・最終処分 各工事現場→収集運搬会社へ委託→産業廃棄物業者へ委託→再資源化・最終処分

（日本工業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

各現場（各現場代理人）→総務部（5年間保存）

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】 別紙1のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・ゴミを分別収集し、作業現場での教育を行う。 ・協力業者説明を行い、発生するゴミの抑制に協力してもらう。		
②計画	【目標】別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 現状での取り組みを継続する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ゴミかごを2種類～3種類分けて設置する ・一般廃棄物との区別を徹底する。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状での取り組みを継続する。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項				別紙1のとおり	
①現状	【前年度（ 年度）実績】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量		t		t
	(これまでに実施した取組)				
	該当なし				
②計画	【目標】 別紙2のとおり				
	産業廃棄物の種類				
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量		t		t
	(今後実施する予定の取組)				
	該当なし				
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項					
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】 別紙1のとおり				
	産業廃棄物の種類				
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量		t		t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量		t		t
	(これまでに実施した取組)				
該当なし					
②計画	【目標】 別紙2のとおり				
	産業廃棄物の種類				
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量		t		t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量		t		t
	(今後実施する予定の取組)				
該当なし					

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】 別紙1のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 該当なし		
②計画	【目標】 別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 該当なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】 別紙1のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 再生処理施設に委託する。		

(第5面)

②計画	【目標】 別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 再生処理施設に委託する。		
	※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産 業 廃 棄 物 処 理 計 画 書

①現状

令和 7 年 6 月 27 日

別紙1

産業廃棄物の種類		コンクリート が ら	建設汚泥	ガラス・ 陶器くず	金属くず	廃プラス チック類	木くず	アスコンがら	合 計
前 年 度 の 実 績 値	排出量(単位 t)	343.9t	13.13t			0.026t		1501.4t	1858.4 t
	自ら再生利用を行った産業 廃棄物の量(単位 t)								
	自ら熱回収を行った産業廃 棄物の量(単位 t)								
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量(単位 t)								
	自ら埋立処分又は海洋投入 処分を行った産業廃棄物の 量(単位 t)								
	全処理委託量(単位 t)	343.9t	13.13t			0.026t		1501.4t	1858.4 t
	優良認定業者への処理委託 量(単位 t)								
	再生利用業者への処理委託 量(単位 t)	343.9t	13.13t			0.026t		1501.4t	1858.4 t
	認定熱回収業者への処理委 託量(単位 t)								
	認定熱回収業者以外の熱回 収を行う業者への処理委託 量(単位 t)								

産業廃棄物処理計画書

令和 7 年 6 月 27 日

別紙2

産業廃棄物の種類		コンクリート が ら	建設汚泥	ガラス・ 陶器くず	金属くず	廃プラス チック類	木くず	アスコンがら	合 計
排出量(単位 t) 【前年度(令和6年度)実績】		343.9t	13.13t			0.026t		1501.4 t	1858.4 t
本 年 度 の 目 標	排出量(単位 t)	300.0 t	13.00 t			0.020 t		1500.0t	1813.0t
	自ら再生利用を行った産業 廃棄物の量(単位 t)								
	自ら熱回収を行った産業廃 棄物の量(単位 t)								
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量(単位 t)								
	自ら埋立処分又は海洋投入 処分を行った産業廃棄物の 量(単位 t)								
	全処理委託量(単位 t)	300.0t	13.00t			0.020t		1500.0t	1813.0t
	優良認定業者への処理委託 量(単位 t)								
	再生利用業者への処理委託 量(単位 t)	300.0t	13.00t			0.020t		1500.0t	1813.0t
	認定熱回収業者への処理委 託量(単位 t)								
	認定熱回収業者以外の熱回 収を行う業者への処理委託 量(単位 t)								